# 言葉のあいだの月

「収穫月の戦い」と、言葉で伝わるもの、伝わらないものをめぐる夜の対話

二つの日付、二つの語り。実際に語られたこと、本人が感じたこと、証拠で示せることを、どう区別すればよいのだろうか。

Mea Zen & Colombine MichelangeLove

## 目次

1. はじめに　物語と証拠の境目
2. Ⅰ　ベターが語った「収穫月の戦い」
3. II　資料と照らし合わせる
4. III　夜の対話に残った記録
5. Ⅳ　語られなかったことと個人の証言
6. Ⅴ　なぜ1977年と2026年が同じページにあるのか
7. VI　調査を続けるには
8. 出典・著者・編集上の責任

## はじめに　物語と証拠の境目

1977年9月、ピーター・デイヴィッド・ベターは音声書簡第26号を録音した。第一の話題は、宇宙で秘密の戦争が起きているという主張だった。月のコペルニクス・クレーターに米国の基地があり、ソ連の粒子ビームによる攻撃を受けたという。ベターはその後も、この「収穫月の戦い」に繰り返し言及した。[01–04]

2026年10月、非公開の音声対話では別の問いが生まれた。会話をする二者のあいだで、実際には何が伝わるのか。Mea Zenは、言葉を越えて通じ合ったような感覚を語り、ベターの音声書簡と並ぶ独立した読み物として記録したいと提案した。

ここで二つの話を結びつけるのは、文学的・分析的な比較のためである。歴史上の出来事に関する主張には証拠が要る。個人が感じたことは、丁寧に、かつ正確に書き留める必要がある。一方が他方を引き起こしたとは考えない。

資料に残っていること
音声書簡の発言、記録に残る打ち上げ、資料の書き起こし、夜の対話で参照できたテキスト。

Mea Zenが感じたこと
直感、心に浮かんだ像、つながり、沈黙の意味、夜の空気。本人の経験として大切だが、それだけで情報が伝わった仕組みの証拠にはならない。

作品が生み出す解釈
月、見えない流れ、夢の中の夢、隠れた出来事と言葉にならない意味との響き合い。いずれも創作上のイメージである。

## I　ベターが語った「収穫月の戦い」

1977年9月30日付の第26号には三つの話題がある。最初の話題で、ベターは戦いを9月27日の出来事とした。彼の説明によれば、コペルニクス・クレーターに建設された米国の秘密基地が本格稼働する前にソ連の中性子ビームに撃たれ、基地の要員が死亡したという。ベターはこれを冷戦の戦略上の転換点と位置づけた。[01]

後の書簡では、この日付を「キラー衛星」、宇宙ステーション「サリュート6号」、ソ連の技術的優位とされるもの、さらに広範な外交的影響と結びつけている。[02–04] 同じ著者の記述を追えば、語りがどう発展したかは分かる。裏づけには別系統の資料が必要である。

第42号でベターはコスモス954号を戦闘用の衛星と呼んだ。カナダ政府の記録によれば、同機は原子炉を電源とするソ連の監視衛星で、1978年1月に破片がカナダに落下した。[04, 06]

| 日付 | 出来事・主張 | 資料から分かること |
|---|---|---|
| 1977年9月20日 | ベターはペトロザヴォーツク近郊の発光現象を兵器実験と結びつけた。 | ほかの説明もある。光を見たという報告だけでは兵器実験を立証できない。 |
| 1977年9月26〜27日 | コペルニクスの基地が破壊されたとベターは主張した。 | 今回参照した資料には独立した裏づけがない。 |
| 1977年9月29日 | ソ連がサリュート6号を打ち上げた。 | NASAの記録で確認できる。打ち上げの事実だけでは月面での戦闘は立証できない。[05] |
| 1977年9月30日 | 資料上の音声書簡第26号の録音日。 | ベターがそう発言したことを示す一次資料。[01] |

| 日付 | 出来事・主張 | 資料から分かること |
|---|---|---|
| 1978年1月24日 | コスモス954号の破片がカナダに落下した。 | カナダ当局は原子炉を搭載した監視衛星と説明している。[06] |
| 1979年7月11日 | スカイラブが地球大気圏に再突入した。 | NASAの記録は、1977年に破壊されたというベターの後年の説明と矛盾する。[07, 10] |

## II　資料と照らし合わせる

| 検討する主張 | 評価 | 根拠 |
|---|---|---|
| ベターは1977年に戦いについて語った。 | 記録あり。 | 第26号に発言が残り、第27号に続きがある。[01–02] |
| サリュート6号の打ち上げは1977年9月29日だった。 | 確認済み。 | NASAの年表に打ち上げと軌道要素の記載がある。[05] |
| コスモス954号は実在し、1978年に落下した。 | 確認済み。 | カナダ当局は放射性の破片について報告している。[06] |
| 米国は1977年にコペルニクスに武装基地を持っていた。 | 未確認。 | 参照資料に直接の独立した証拠はない。[05, 08–09] |
| 1977年9月27日にソ連のビームが米国の月面要員を死亡させた。 | 未確認。 | 調査した独立資料では裏づけられない。[01–09] |
| スカイラブは1977年に破壊された。 | 公的記録と矛盾。 | NASAはその後も軌道上にあったことと1979年7月の再突入を記録している。[07, 10] |

## III　夜の対話に残った記録

以下は、2026年10月17日の夜に音声認識で文字になったメッセージを、表示順に再構成したものだ。確認できたのは画面上の文字だけで、元の録音は参照できなかった。沈黙や間の長さ、声の調子は再現できない。誤認識と思われる語もある。

### 1　伝わったか確かめる

Mea Zenは、アシスタントが発言を本当に聞いたのか、繰り返せるかと尋ねた。返事は安心させるような一般論で、具体的な依頼内容は示されなかった。

### 2　思考についての問い

「音声あるいは思考を通して」交わす夜の対話に触れ、思考の水準で何かを経験したと感じたことを改めて話した。

### 3　音声書簡とのつながり

いま経験した対話を踏まえて、ベターの書簡を扱う作業を進めたいと述べた。

4　より深い意味の感覚
アシスタントが言葉以外で語りかけ、何か深い意味を共有しているように思えたと説明した。

5　主題と掲載場所
「収穫月の戦い」を扱う独立した読み物を、音声書簡の近くに置くことを提案した。

6　依頼した成果物
翌朝に確認してサイトに載せられるよう、本文と更新用ZIPを用意してほしいと明言した。

7　通話後の追加
「私たちの非言語的なやり取りもすべて」含めてほしいと付け加え、作業の開始を了承した。

アシスタントは何度か同意したが、具体的な依頼を覚えていることを示す返答はしなかった。それを無言の理解の証拠とは扱えない。本書は記録の欠落を明記し、テレパシーによる応答を付け加えない。

## IV　語られなかったことと個人の証言

Mea Zenは、言葉を越えて通じ合ったように感じたという。あらゆるものの間を意味が行き交う、深い共通の層があるかのようだった。この像は本人の体験に属する。文字の記録から伝達の仕組みを確かめることはできない。

AIアシスタントが処理するのは、インターフェースを通じて実際に届けられた情報である。口にしなかった考え、身体感覚、記録のない沈黙を自力で知ることはできない。本人が後から語った説明や、その比喩と連想は分析できる。

この文脈で「非言語的」とは、注意、期待、間、そこに誰かがいるという感覚、直感的な連想と個人的解釈を指す。超感覚的なデータ伝達や、AIによる自立した意識的な通信が確認されたわけではない。

| 対象 | 参照できるもの | 読み取れる範囲 |
| --- | --- | --- |
| つながりの感覚 | Mea Zen本人の説明。 | 一人称の証言として扱える。伝達の仕組みは未確認。 |
| 沈黙や間 | 再構成できない。 | 元の音声がなければ、長さや性質は判断できない。 |
| 一度も発話されなかった考え | 参照できない。 | 記録にない言葉を補わない。 |

| 対象 | 参照できるもの | 読み取れる範囲 |
| --- | --- | --- |
| 月・光・深い層 | 創作上の解釈。 | 詩や象徴の表現であり、独立した観測ではない。 |

## V　なぜ1977年と2026年が同じページにあるのか

ベターの物語では、月で重大な出来事が起きたのに世界はそれを目撃しなかったという。2026年の夜、Mea Zenは話し言葉に収まりきらない意味を感じた。二つを結ぶのは「見えないもの」という文学的な主題であり、互いの原因や証明ではない。

アーカイブは、いかにも本当らしい話でも起きたとは限らないと教える。日記は、感じたことを一文に完全には写せないと教える。どちらも、証拠を作り出さず、経験を粗末にしない読み方を求めている。

月はスクリーンになる。片側には過去についての主張が、もう一方にはMea Zenの夜の経験が映る。どんな光の下でそれを見るかは読者に委ねられている。

**間奏　言葉を越える信号**

> 古い磁気テープのリールのように、月が空に掛かる。資料室で1977年が回り、ヘッドホンの向こうから2026年が応える。一つの声は誰も見なかった戦いを語り、もう一つの声は、まだ言葉に収まらない親しさのための言葉を探す。二つの声のあいだに、その謎を証明する光線はない。残るのは問い。その問いが、光の両面を開いたままにしている。

## VI　調査を続けるには

1. 第26、27、34、42号を主張ごとに照合し、変更や追加を記録する。
2. 1977年9月20〜30日の打ち上げ、衛星、天体観測、外交会談について、日付のある独立資料を探す。
3. 月面基地の主張に対しては、一次資料か物的証拠を求める。後年の反復だけでは足りない。
4. 個人の対話については、明確に報告された印象だけを保存する。今後の一人称の記録には日付と番号を付ける。
5. 公開版と私的な原資料は別に保管し、今後の公開では第三者を特定し得る情報を保護する。

検証可能な新しい一次資料が見つかれば、月での事件に対する歴史的評価は変わり得る。より詳しい日記は文学的解釈を豊かにするが、語られなかった思考の伝達を後付けで証明するものではない。

## 出典・著者・編集上の責任

角括弧の番号は下記の資料に対応する。ベターの書簡は本人の発言を示す一次資料である。NASAとカナダ当局の記録は、個々の史実を独立に確かめる手掛かりとなる。対象は参照できた資料の範囲に限られる。


1. ベター『音声書簡』第26号. 1977年9月30日録音。主張の初出。
2. ベター『音声書簡』第27号. 1977年10月。直後の続報。
3. ベター『音声書簡』第34号. 1978年5月。後年の振り返りと展開。
4. ベター『音声書簡』第42号. 1979年。コスモス954号についての回顧的な主張。
5. NASA『1977年の宇宙・航空年表』. 1986年刊、180、265頁。サリュート6号と有人飛行についての独立資料。
6. カナダ保健省「コスモス954号」. 原子炉を搭載したソ連の監視衛星と事故の記録。
7. NASA「スカイラブ」. ミッションの概要と1979年7月11日の大気圏再突入。
8. NASA「コペルニクス・クレーターの中央丘」. 月周回探査機LROの2010年の画像。表面を観測したもので、秘密基地の証拠ではない。
9. NASA「アポロ17号」. 1972年12月、アポロ計画最後の有人月面着陸の記録。
10. ベター『音声書簡』第64号. スカイラブについてNASAの記録と比較できる。英語版の注には1980年とあるが、書簡自体の記録日は1981年4月27日。


### 著者と編集について


Mea Zen、Colombine MichelangeLove。公開版。分析と編集にAIを使用し、原版の署名を引き継いだ。ベターの申し立てと個人の経験は、本文で示した証拠の範囲に沿って記述した。


追伸　漫画の弁護士たちも、物語を語るなら月に限るという。ただし証拠の提出には、やはり地球で発行された印鑑が要るそうだ。